



科研費「在来知と近代科学の比較研究」  
第5回研究会

ローカル漁民による  
サンゴ礁保全のしくみ

東賢太郎ほか編『リスクの人類学』世界思想社、2014年(印刷中)

飯田卓(国立民族学博物館)

はじめに

# 人類居住の舞台としての沿岸

- 海：人は住まないがタンパク質を提供  
(資源が豊富なアネクメーネ)
- 人口が集中しても資源葛藤が起こりにくい、  
特別な場所 (cf. 焼畑)
- 進歩主義的図式(狩猟採集→粗放的農耕→集約的農耕)に集約できない(粗放な漁撈と近代的漁撈の併存)

# 「粗放」漁撈が根絶するきざし？

- 漁場環境悪化（乱獲+地球温暖化？）
- 産業漁業の効率化（捕獲効率より探索技術）
- 種や生物多様性の保全をめざす環境主義
- 商業化していく漁撈を「適切に管理」しようとする資源管理主義

→ 独自でコントロールしにくい未来  
(cf. 地球温暖化)

# 発表の要旨

- 漁業における不確実性の排除
- マダガスカルを事例に...
  - 「空前の危機」に直面した漁民の技術的対応
  - 漁民以外のアクターをまじえた「資源管理」(社会的調整)

# 調査地とヴェズ漁民について



# ヴェズ漁民による 不確実性の排除

# 歴史的経緯

- 1970年代以前 (貨幣経済の限定)
- 1970年代 (貨幣経済と近代的素材の導入)
- 1980年代 (資源枯渇)
- 1990年代 (さまざまな技術的工夫の発明)



# さまざまな技術的工夫

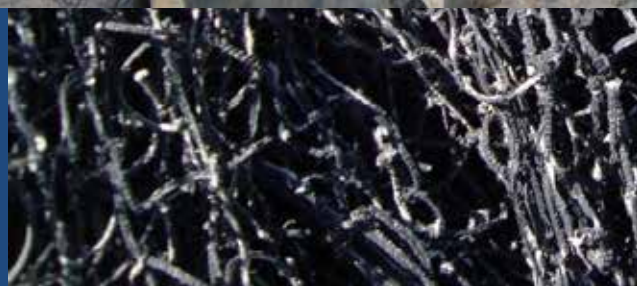
- ゴム製品の利用(銛銃、タイヤ網)
- 網漁の改良
- イカ疑似餌
- 電灯潜り漁(環境NGOのある村では自粛)

# あたららしい事物の活用 1

- 手作りによる銃の普及



# あたららしい事物の活用 2





# あたららしい事物の活用 3



- フカヒレが高額で売れるという市況
- 「大きい網目の漁網でサメが捕れる」という噂
- サメの習性についての知識と、小中型魚類の刺網漁の経験

# あたららしい事物の活用 4

- 手作りによるイカ用疑似餌の普及
- 樹脂製の疑似餌から針部分だけを抜きとり、木材で自作した本体に付け替え(カスタマイズ)



# あたらしい事物の活用 5

- LEDランプによる電灯潜り



# 事例の要約

	在来技術	在来素材	新素材
銛銃	木工技術 潜水技術	木材 鉄棒	ゴム、針金 (銛銃見本)
イカ釣り	木工技術 (イカ習性の知識)	木材	イカ餌木の針部 (イカ餌木見本)
電灯潜り	潜水技術	—	コンドーム LEDランプ
タイヤ漁網	漁網製作技術	木材(ウキ) 鉛(オモリ)	大型タイヤ

身近な道具や材料を用いた手づくり = ブリコラージュ

# 小括：漁民の対処の特徴

- 個々の漁師の経験が集団的に共有され、改良されていく(実践共同体？ ゆるやかな模倣を介した漁民間のコミュニケーション系列)
- 学習の対象はルーチンでなく、即興で異質なものを組み合わせる技法(ブリコラージュ)
  - 環境の変化に柔軟に対処する余地
  - 資源とともに、実践を可能にする社会環境の維持が前提



漁民以外のアクターをまじえた  
「資源管理」

# 「参加型資源管理」の登場

- モニタリングとアセスメント(MSYモデル)にもとづく「科学的管理」
- 1980年代: 伝統(経験)的管理の再評価
- 1990年代: 国家管理と共的管理の調和  
参加型開発のスキームが普及

# サンゴ礁保護団体の活躍

The screenshot shows a web browser displaying the Blue Ventures website. The browser's address bar shows the URL <http://www.blueventures.org/home/about-us.html>. The website header features the logo "blue ventures" with the tagline "discovery through research" and a search bar. Below the header is a navigation menu with links for "home", "expeditions", "research", "community", "news room", and "gallery". The main content area is titled "about us" and contains the following text:

Blue Ventures is an award-winning marine conservation organisation dedicated to conservation, education and sustainable development in tropical coastal communities.

Through our marine expeditions, volunteers from around the world join us on career breaks, student gap years and internships, working closely with our field research teams, in partnership with local communities.

We have a commitment to responsible travel on all of our expeditions.

**what do we believe?**  
We believe that with the right knowledge, developing coastal communities can live in harmony with their marine environments.

**what is our purpose?**  
To give coastal communities the knowledge and skills they need to live sustainably.

**how do we do it?**

On the right side of the page, there is a red button that says "join an expedition!". Below that is a "contact us" section with the following information:

**contact us**  
Office: +44 (0)20 7339 1287  
+44 (0)20 7339 0770  
FAX: +44 (0)800 066 4032  
Online: Contact form

Below the contact information are social media icons for Skype, Facebook, YouTube, and Twitter.

Further down is a "signup for our newsletter today!" section with an "Email Address:" field and a "Join Now" button.

At the bottom right, there is a section titled "our awards" which features a yellow award tag. The tag contains the following text:

Virgin Holidays  
Responsible Tourism  
Awards 2006 with  
responsibletravel.com  
Best in a marine environment  
Highly Commended

The award tag also features a small globe icon.

# Blue Venturesのサイトより 1

- マダガスカルにおけるわたしたちの社会還元プログラムは、就学助成や家族計画教育、資源の持続的利用の奨励などをおして、漁村を支援しています。さまざまなコミュニティ・プログラムをつうじて、わたしたちはマダガスカルの村落の生活・労働条件を改善しつつあり、いっぽうで持続的資源管理を奨励し、より安定した環境を実現しようとしています。

# Blue Venturesのサイトより 2

- 保健衛生：人口抑制に関わるreproductive healthの取り組み
- 代替収入：サンゴ礁保全と引き換えの海藻養殖、ナマコ養殖、エコツアーリズム振興
- 環境教育：増大しつつある脅威に対処するための知識・技術の付与
- 就学支援：20ポンドで1年間の学費

# Blue Venturesによる資源管理

- 2003年春 アンダヴァドゥアカ村でBVの活動開始
- 2004年秋 タコ禁漁についての話し合い、一部水域を禁漁区に
- 2005年春 解禁、大型タコ捕獲の報道、国連シード賞
- 2006年秋 MPA(保護水域)その他の保護区についての話し合い、ヴェルンヂアケ結成





- Home
- Velondriake
- Overview
- In the news**
- Velondriake Committee
- The Vezo
- Getty Scholarship
- Getty Scholarship (Fr)
- Conservation
- Ecology
- Education
- Ecotourism
- Downloads & media
- Community

Latest downloads  
[Blue Ventures research up...](#)  
[Harris, A. "To live wit..."](#)

Awards

## WWF announces 2008 winner of prestigious Getty award named "The Nobel Prize for Conservation."

Tuesday, 21 October 2008 16:54

WWF announces 2008 winner of the prestigious Getty Prize for Conservation is Mr. Roger Samba, President of the Velondriake Committee.

**Washington DC, October 21, 2008** - [World Wildlife Fund](#) (WWF) has announced that Roger Samba has been named the winner of the [2008 J. Paul Getty Award for Conservation Leadership](#). The annual award honors outstanding contributions to international conservation and carries with it a \$200,000 prize.

Mr. Samba is a community leader in the Malagasy Republic village of Andavadoaka in southwest Madagascar, and with Samba organized the world's first community run no-take critical economic importance to the community, driving benefit the environment. This work became a model for the village being awarded the 2007 UN Equator Prize.

"Each year, the J. Paul Getty Award honours one of the helping to build the leaders of tomorrow," said Carter Rol US, who administers the award for the Getty family. "This Samba, whose work – which originates at the community embodies the local to global approach so crucial in finding problems."

For generations, the indigenous semi-nomadic Vezo people Samba's village - have depended on artisanal fishing activity tradition. But in recent years, the region's marine resource expanding coastal populations, unsustainable tourism and fleets.



# BVからヴェルンヂアケへ

- ヴェルンヂアケ (Velondriake) は、コミュニティが運営する沿岸・海洋保護区のネットワークで、西インド洋で最大です。わたしたちヴェズ漁村の住民は、ある目標を共有しています。わたしたちの天然資源を持続的に管理することです。



# ヴェルンヂアケの資源管理

2008年 WWFよりPaul Getty賞

2009年秋 Andavadoaka村で電灯潜り漁禁止、  
はじめて禁漁水域を運用、  
「ロジェ・サンバ奨学金」奨学生を募集

今後 2006年に提案された保護区の実現

# ヴェルンヂアケの活動

- 2006年現在、23の村が「委員」を選出。
- 各村の「委員」は、賃金雇用の機会がある。各村で捕獲されたタコのサイズの計量など。
- 年に3回の会合。タコ禁漁期間の設定など。
- 委員の定数が人口比率に一致しなくなりつつあり、地区全体を3つに分け、それぞれに選挙をおこなって「理事会」を構成する体制に移行中。

# 村民の受けとめかた

- 禁漁水域の設定は、キャンプ出漁に行っているあいだにおこなわれたので、関知しない  
(2006年秋の提案は、合意されていない)
- 本部のアンダヴァドゥアカ村の人たちだけが仕事にありつき、他の村に対する見返りはない。会合のための経費支給も一律で、遠くの村からの参加に対する配慮がない。

# ヴェルンヂアケによる管理の問題

- 資源の維持に目を向けるあまり、「漁民の対処」を可能にする社会環境の維持が重視されていない
- 非漁民の多いアンダヴァトゥアカ村の委員が主導
- 代表についての考えかたが異なるため、執行部と各村の連携がとれていない
- とはいえ、組合の機能が停止するほどの拒否には遭っていない

# 結論

# 漁民自身の対処について

- ヴェズ漁民は、近代的素材をとり入れつつ、漁法をたゆまず刷新している。
- 近代的な動力や機器はまだ導入されておらず、漁法刷新による漁獲圧の高まり(=資源枯渇)はまだ先である。
- 人口増加は問題だが、それゆえにこそ、漁場の囲い込みや分断化には慎重になる必要がある。(漁獲対象の変更による対応。)

# 非漁民をまじえた管理について

- 保護区の試験的運用自体は問題なし。
- 漁民の参加はあるものの、目標設定や意志決定には非漁民の考えかたが根強い。
- 調査地域は参加型管理の成功例とされているが、非漁民の功績というより、参加型管理に対する漁民たちの寛容さに帰すべき？

# ヴェズ漁民がBVから得ているもの (雇用などの経済的側面を除く)

- 女性の地位向上という価値観(婦人活動の活性化)
- 動植物に関する知識(サンゴ産卵の映像)



# 漁業振興についての見通し

- 近代的な動力・機器の導入には慎重になるべき
- 電灯潜り漁の禁止や保護水域の導入については、非漁民も漁民の意見に耳を傾けたほうがよい
- 「すでに成功した漁民」を資源管理論は軽視しすぎてきたのではないか？



# 伝統的な不確実性の排除 (一般的に)

- 季節的移住による資源の追跡
- 技術的な工夫、船舶の改良
- 漁撈集団の形成維持や、資源利用の取り決めという社会的対処

(Acheson 1981)

# 近代的方法による不確実性の排除

- 動力革命 (本質的に漁場開拓の手段)
- 素材革命 (伝統的な不確実性排除の延長)
- 機器革命 魚の居場所を「見る」という革命
- 資源管理 居場所だけでなく、生物資源の増減を「科学的に」見て対処  
(資源増殖という対処も含む)